

## JSCA カヤックベーシック 報告書

■報告日 2019年5月15日(水)  
■報告者 中村昭彦

---

■実施日 2019年5月13日(月)-5月14日(火)  
■実施会場 (知識) 信濃町野尻湖支館(長野県上水内郡信濃町)  
(技術) 野尻湖菅川地区(長野県上水内郡信濃町)  
■主管 一滴 Paddle & Mountain Guide  
■担当トレーナー/担当講師 中村昭彦(一滴 Paddle & Mountain Guide)  
■受験生 1名(三重県)  
合格予定者1名  
■当日の天候 知識課目は快晴、技術課目の日は時折日差しがで、20°C弱。微風

---

### ■開催の経緯

JSCA 公認スクールのスタッフに対して、検定会の依頼があり開催しました。アシスタント登録をしている準会員に対して、カヤックと SUP のベーシックの検定を、既に一般会員の資格を所持しているスタッフに対しては知識課目免除の SUP ベーシックの検定を行いました。

### ■知識課目

今回受験された方は、日本在住で就労資格を所持している外国人でしたが、日本語はある程度話すことができました。ただし、専門用語はむずかしく、それを伝えるために携帯電話の翻訳機能を駆使しながら行いました。既に一般会員のスタッフが研修で参加していたので、色々とフォローもしていただき助かりました。また、文字の読み書きが不得意な障害を持っており、筆記テストができませんでした。よって、テスト問題を口頭で伝え、その答えを検定員が筆記する方法でおこないました。受験生が1名だったので、今回は問題ありませんでした。

### ■漕艇技術&フィードバック

母国にいたころにカヤッククラブでしっかりと教育を受けていたので、良い漕ぎをしていました。ただし、インストラクター/ガイドとして、ゲストがわかり易い漕ぎをするためにどうすればいいかをフィードバックで伝えました。

### ■指導法&フィードバック

人数が1名だったので、3種目全てをやらしてもらいました。普段は SUP のインストラクターをしており、カヤックは趣味として漕いでいたようで、カヤックの伝え方に苦労しているようでした。フィードバックでは言葉のことも踏まえ、検定員が一通りデモをし、持ち帰りのネタを増やしていただくよう努力しました。

### ■安全講習

今回はリバーカヤックで受験をされたので、セルフレスキューではロールの確認と、もし沈脱してしまった場合のセルフレスキューを行いました。リバーカヤックでの再乗艇は非常に難易度が高く、ロールの重要性とじてもらいました。アシストレスキューではそれぞれ実際に起ってしまったら嫌な状況を考えてもらい、それを実践してみました。

### ■総括

今後、出身が外国の方も受験する可能性が高くなるかもしれません。そのための準備を出来る限り早くおこなうことが重要であると感じました。